

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

ヘルスフードサイエンス学科

名 前 玉 木 雅 子

作成日 2025年4月22日

### 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

ヘルスフードサイエンス学科では、食品学総論、食品学各論、コミュニケーション演習（1年生必修）、食品管理論（2年生選択）、食品学実験Ⅱ（3年生必修）、卒業研究（4年生選択）、健康栄養学科では、食品学総論および食品学各論（1年生必修）、食品管理論（2年生必修）、食品学実験Ⅱ（3年生必修）、管理栄養士総合演習（4年生必修）、人間科学科では食べ物学（選択）、大学院心身健康科学専攻では食文化特講（選択）を担当している。学科内分担として、学科長補佐、2024年度は2年生、2025年度は4年生の担任。委員会活動では、学生委員会（委員長）、自己点検・評価委員会、教職員（人間科学部および大学院）、倫理審査委員会、アドミッション委員会（大学院）、就職対策ワーキンググループ、内部質保証ワーキンググループに所属している。

### 2. 理念（教育に対する考え方）

本学のディプロマポリシーである、現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造性、表現力などの修得が大切だと考えている。ヘルスフードサイエンス学科では、学科ディプロマポリシーである、「食」が身体健康と心理的・社会的・文化的側面と密接に関わることの理解、人々の健康を「食・栄養」と「フードビジネス」の側面から支援する能力の修得を意識している。学生には、食品に関する発見、洞察、考察の習慣を身に付け、創造性、表現力を膨らませて欲しい。食がこことからだに多面的に密接にかかわることに気づき、人々の健康を「食・栄養」の面から支援する意識を高めてもらいたい。1年次の座学授業では、それらの気づきを重視し、3年次の実験科目では、科学的な視野で物事をとらえ、解析することを、他者との協働のもとに実現してもらえるような授業を心がけている。このことは、本学のディプロマポリシーである、社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質の養成につながると考えている。そしてなにより、学科で大切にしている「楽しく学ぶ」精神も意識し、授業の雰囲気作りに心がけている。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

1年次の座学授業では、苦手意識を払拭し食品学の楽しさを知ってもらうために、化学構造式の使用を最低限に留めること、具体的で身近な例を提示すること、の2点を心がけている。ヘルスフードサイエンス学科では、毎回の授業の課題提示で、食品学が身近で、その修得が人々のより良い生活を支援する力になることの意識付けを促している。健康栄養学科では、管理栄養士を目標とする学習の動機付けのために、国家試験過去問題に触れる機会を持たせている。具体的には復習用のUHAS練習問題（後述）や予習用資料（後述）に組み込んでいる。両学科とも、事前の予習を促すために、第1回目の授業のときに予習用資料の冊子を配布している。学生は、予習用資料に従い、教科書の重要な部分を読んでから授業に出席する。更に授業後の復習を促す媒体として、UHAS上に各回の該当箇所の練習問題を設置している。実験授業では、実験で得られたデータの処理方法、最終的な結果の意味するところの理解を促している。レポート作成では考察部分に力を入れられるよう、書式を配布している。

#### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

予習の助けとして予習用資料、復習用に練習問題と授業録画をUHASにアップロードしており、それらが予習復習の約に立つとの評価を得ている。これらを準備するようになってから、予習・復習をしてくれる学生さんの割合が増えた。

#### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

短期目標として、授業後の課題の未提出者をなくす。中期計画として、課題の積み重ねにより学生が学修内容を言語化できるようになることを目指す（定期試験の記述問題で確認）。

\* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

#### 【添付資料】

- ・ シラバス
- ・ 予習用資料（印刷物として各座学授業の初回で配布）
- ・ UHASテスト（両学科とも、食品学総論、食品学各論、食品管理論の、マナビ＞提出物 に設定）
- ・ 授業動画（UHAS マナビ＞録画授業 に設定）
- ・ 授業評価アンケート